

## コロナ禍のモスクワ:マスクはお嫌い?

西山 美久

日本では風邪予防のためにマスクを着ける人が多い。他方、ロシアではその着用には抵抗感を持つ人が多いと聞いたことがある。

しかし、新型コロナウイルスの世界的拡大によって、マスクへの抵抗感が和らいできている。政府系調査機関の全ロシア世論調査センターが2020年11月に発表した調査結果によると、大多数の国民がマスク着用義務化を肯定的に捉えていた(89%)。また、2020年12月に独立系調査機関レヴァダ・センターがモスクワ市民を対象に実施した世論調査によると、大多数の市民が感染対策としてマスクを着用している(93%)。公共交通機関やショッピングモールなど屋内での着用についても83%が肯定的であった。

モスクワ市内ではコロナ感染者の減少傾向が続いていたが、2021年6月頃から増加に転じ、10月15日には約6600人の新規感染者が確認された。市内を散歩したときに街中をざっと見渡してみると、マスク姿の人は少ない(写真はモスクワの赤の広場、筆者撮影)。コロナ疲れなのか、ワクチン接種済みなのかは分からないが、日本人の感覚からすると「おいおい大丈夫か」と思うでしょう。

この点、ロシア連邦消費者権利保護・福祉監督庁によ



ると、マスク着用は公共交通機関やショッピングモールなど屋内に限られており、屋外での着用は義務ではない。モスクワ市では公共交通機関やショッピングモールなど屋内でのマスク着用がこれまで同様に求められている。違反した場合には罰金が科される。ところが、地下鉄やショッピングモールではマスクを着けずに堂々としている人や、マスクなしで咳き込んでいる人を見かけることがあり、同じ空間に居合わせて大丈夫なのかと心配してしまう。マスク姿であっても、鼻を出している人もおり、とりあえず着けたという感じであろう。

モスクワ市では感染者の増加を受け、マスク未着用者の取り締まりが強化されている。インターファクス通信によると、9月初旬の段階で市内の公共交通機関で2万7千件の違反が確認されたという。

なぜマスクを着けないのか。モスクワのニュース番組がマスクなしで地下鉄を利用しようとする男女数人にインタビューを実施したところ、彼らはいずれも「忘れていただけですよ」「急いでいたので間に合いませんでした」などと答え、インタビューからの指摘を受けると直ぐにマスクを着けた。コロナの影響でマスクへの抵抗感が和らいでいるようだが、着けたり外したりするのが面倒なのだろうか。(北海道大学)

### モスクワ「ムゼイ」巡り・その28

#### バーチャル版プーシキン美術館(その1)

大矢 温

モスクワで美術館といえば、前回ご紹介したトレチャコフ美術館、そして今回から2回に分けてご紹介するプーシキン美術館が有名だ。トレチャコフ美術館がロシア美術をコレクションしているのに対して、プーシキン美術館は外国の美術品が中心だ。特にこのプーシキン美術館、もともとはモスクワ大学の施設だった(1912年に一般に公開された時の初代館長は詩人のA. ツヴェタエヴァの父親でモスクワ大学教授H. B. ツヴェタエフ) こともあり、他の美術館とは若干趣が違ふ。エジプトで発掘した考古学遺物、それから教材用のギリシア彫刻の石膏像(つまりコピー)など、「美術館」というには抵抗がある「ムゼイ」である。さて、プーシキン美術館のホームページにはバーチャル版が用意してあるので、今回はGoogleではなく、このバーチャル版を使ってご紹介することにす

る。まずは古代エジプトの部屋。このほかにもメソポタミアやギリシアなど豊富な考古学コレクションに驚かされる。その中でも焦点はトロイの遺物。ホメロスの創作と考えられていた古代国家トロイの存在を信じたドイツ人H. シュリーマンが私財を投じてトルコ領内で発掘した貴重な出土品が、第二次世界大戦の戦利品としてソ連に搬入され、長らくその所在が隠されていた後、ソ連崩壊後に一般に公開されたという、いわくつ

きのコレクションだ。窓際に黄金の頭飾りが陳列されているのが見える。

ご存じ、ミロのヴィーナス。このほかミケランジェロのダヴィデ像など有名な作品は一通りそろっているが、上述の通り、これらの彫刻は学習用のコピーだ。

(札幌大学地域共創学群 教授)



プーシキン美術館